

報 告 書

開 催 日 時	令和2年2月22日(土) 午後1時30分～午後3時31分
開 催 場 所	ホテル白鳥 千鳥の間
出 席 委 員	米田委員長、立脇副委員長、貴谷委員、石倉委員、田中明子委員、吉金委員、宅野委員、川井委員、森脇幸好委員(9名)
出 席 団 体	松江市医師会(出席者11名)
議 題	松江市医師会における現状と課題について
主 な 意 見 等	(別紙に記載)

松江市議会議長 様

令和2年3月16日

議会基本条例第7条の規定により意見交換会を実施しましたので報告します。

令和元年度 議会報告会 意見交換会

教育民生委員長 米田 ときこ

(別紙)

①准看護学校の運営について

本校の卒業生の進路としては、病院に5割、開業医に2割、福祉施設に3割が就職しているが、この内7割が松江市内に残っている。卒業後地元への定着率が高いという特徴があり、定住の促進に貢献している。本校の特徴の1つとして、30代、40代の子育てや仕事をしながら学ぶ学生が多くを占めている。学生数がここ数年減少傾向にあり、松江市の協力の下、様々な取り組みを行った結果、受験者数の増加につながった。今後も行政の支援をお願いしたい。

②休日診療室について

休日診療室は松江市が医師会に委託し、平成25年に開設している。平成24年以前の日赤、市立病院、生協病院の救急患者数は、6万人以上であったが、松江記念病院に休日診療室が開設されてからは、4万人程度まで減ってきており、この事業は非常に重要な役割を担っている。休日診療室は、医師会に所属している開業医を派遣して診察しているが、最近徐々にメンバーが減ってきており、今後の運営が先細りするのではないかと懸念している。

③在宅医療について

④がん検診・教育について

東出雲町では高齢化が進み、独居世帯が増えてきている。また公共交通機関も少なくなってきており、高齢者にとってどんどん不便となっている。高齢者施設はたくさんあるが地域によって偏在しており、高齢者が住みやすいまちとなっていない。交通体系も含めた再開発について、市と一緒に考えていきたい。

松江市のがん検診率は非常に低い状況であり、市民への啓発不足である。胃がん検診に関しては内視鏡カメラによる検診が導入されているが、肺がん検診については、国において、CT検査に向けた施策が示されない。対策型検診が国の施策として進まないということであれば、肺がんドックという形で導入できないか。

医師会では現在、係りつけ医による在宅看取り代診医システムの検討を行っており、こうしたことの啓発活動を行っていきたいと考えており、松江市と協議を重ねているところである。終末期医療については、係りつけ医において整備していかなければならないが、訪問看護、ケアマネージャー、消防関係者と緊密に連携を図る必要があると考えており、

現在その準備をしているところである。

④学校医を取り巻く諸問題について

児童生徒は減少したが、学校医の業務は増えており負担感があり、激務の割には報酬が低いと学校医は減少傾向にある。

⑤骨粗鬆症について

日本人の10人に1人が骨粗鬆症と言われており、その内3割の方が治療を受けている。厚生労働省が公表したデータによると島根県の骨粗鬆症の検診率は全国では最下位である。骨粗鬆症検診率と要介護率の関係では検診率が上がれば上がるほど要介護率が下がっていくという相関関係が認められる。このことから骨粗鬆症検診を行うことにより、要介護率を減らすことができ、ひいては介護費用も減らすことができる。医師会としては骨粗鬆症検診事業の実施について、今後市に働きかけて行く考えであり、支援をお願いしたい。

⑥禁煙治療について

昨年、松江市では禁煙外来による治療を完了した国保加入者に対して1万円を上限に医療費助成している。更に、たばこをやめやすい環境の整備を進めていくために間口を広げて全市民が対象となるように社会保険加入者に対しても助成をお願いしたい。

⑦糖尿病について

人工透析に至らないような重症化予防が重要である。

⑧その他

松江市内の開業医不足解消について

- ・島根医科大学の学生が島根に残るような施策を島根県と一緒にやらない限り開業医は増えない。
- ・医科大学を卒業した医師が定着できるような環境をつくって行くということが一番大事である。
- ・一般的に開業医は松江市立病院や日赤、生協病院などの総合病院で勤務していた医師が開業している。このことから、地元の総合病院で働く医師が確保されていない限り開

業医は増えることはない。従って、病院も若い医師が働きたくなるような処遇改善、働きやすい環境整備などの政策を行うことにより医師が増え、更に松江市内の開業医は増えることとなる。このように、若い医師が松江市で医療をしたいと思わせる魅力がないと松江市の総合病院に勤務してから開業したいという医師が増えないのではないか。